

平成 21 年度研究交流計画概要

1 共同研究

共同研究として取り組んでいる「発達障害児の親支援のための調査」(3 カ国国際比較研究)の先行研究を実施してきたが(2009 年 6 月の第 3 回セミナーで中国、ベトナムチームの中間報告を予定)、今年度は本調査を実施する。日本チームはアンケート調査による本調査へとステップアップさせる。またアンケート調査に加え聞き取り調査など質的研究などでデータの妥当性を高めていく。

3 カ国の先行研究をふまえ国際比較研究に向けた分析を行い、その結果を 2009 年 11 月の第 4 回セミナーで報告する予定である。なお、2010 年に向けて本調査の準備を始める。

2 セミナー

今年度はハノイ師範大学(ベトナム)で 2 回のセミナーを開催する。セミナーでは、国際共同研究「発達障害児の親支援のための調査」(3 カ国の比較研究)の報告を行うとともに、次の本調査に向けての討議を行う。

あわせて関連施設などの協力をえて「発達障害児の早期発見・早期対応プログラム開発」の実情の研究交流、「発達障害児の個別指導計画(IEP)の作成のための理論と実際」を柱に研究発表を行い、研究交流をすすめる。

第 3 回セミナーは 6 月 2 日～4 日の間ハノイ師範大学(主催)で実施することが決まっている。このセミナーでは、国際共同研究の研究成果を報告するとともに、親や現場の専門家にも参加してもらい「親のニーズ」や「個別指導計画の作成」の実態を研究交流する予定である。

第 4 回セミナーは 11 月中旬に実施することで 3 カ国の合意がえられているが、具体的な日程は、ハノイ師範大学の年間行事との調整を経て決定する予定である。発達障害や治療教育の概念の各国間の共通理解が進み始めてきており、国際動向をふまえてセミナーでの研究交流テーマを決定していきたい。

3 研究者交流(共同研究、セミナー以外の交流)

2008 年度の実績を踏まえ研究交流をすすめていきたい。具体的には、日本、中国、ベトナムの 3 カ国の若手研究者(大学院生を含む)を 2009 年 8 月(夏期休暇中)および 2010 年 2 月(冬期休暇中)を利用して派遣し、各国の共同研究に参加できる機会を設ける予定である。また、協力して国際学会(2009 年 5 月 7 日～9 日の国際自閉症会議:アメリカ・シカゴ、2009 年 8 月 20 日～22 日のアジア・太平洋自閉症会議:オーストラリア・シドニーなど)への参加を実現し、国際学会での報告を見すえつつ研究交流をはかっていきたい。

また、3 カ国が協力して現場の教員、指導者を対象としたワークショップの開催などの企画を立案していきたい。

なお、国際比較研究を展開するために、日本国内においても(研究者、留学生)、中国チームやベトナムチームと比較研究の作業チームを発足させる予定である。

平成 21 年度研究交流計画総人数・人日数

1 相手国との交流計画

派遣先 派遣元	日本 <人 / 人日>	ベトナム <人 / 人日>	中国 <人 / 人日>	<人 / 人日>	<人 / 人日>	合計 <人 / 人日>
日本 <人 / 人日>		13/78 (6/36)	5/30			18/108 (6/36)
ベトナム <人 / 人日>	6/36		6/36			12/72
中国 <人 / 人日>	4/24	10/60				14/84
<人 / 人日>						
<人 / 人日>						
合計 <人 / 人日>	10/60	23/138 (6/36)	11/66			44/264 (6/36)

各国別に、研究者交流・共同研究・セミナーにて交流する人数・人日数を記載してください。(なお、記入の仕方の詳細については「記入上の注意」を参考にしてください。)

日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入してください。(合計欄は()をのぞいた人・日数としてください。)

2 国内での交流計画

6 / 18	<人 / 人日>
--------	----------

国内に在住している中国チーム(東京)およびベトナムチーム(和歌山)の研究者や留学生を京都に呼び作業チームを発足させる。ここでは国際比較研究の調査方法や内容についても共同して検討する。

平成 21 年度研究交流計画状況

1 共同研究

研究課題ごとに作成してください。

整理番号	R - 1	研究開始年度	平成 20 年度	研究終了年度	平成 22 年度																																																		
研究課題名	(和文) 特別な教育のニーズ調査に関する調査研究 (英文) An research on the examination of needs for special education																																																						
日本側代表者 氏名・所属・職	(和文) 荒木穂積・立命館大学産業社会学部・教授 (英文) Hozumi Araki, Professor, Department of Social Science , Ritsumeikan University																																																						
相手国側代表者 氏名・所属・職	(ベトナム国) Nguyen Thi Hoang Yen・ハノイ師範大学障害児教育学科・ 学科長、(中国) 黄辛隠・蘇州大学教育学部・教授																																																						
交流予定人数 (日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入のこと。)	相手国との交流 (第3回セミナー(S-1)と第4回セミナー(S-2)での派遣・招聘が共同研究を兼ねているが、明確に区別できないため、交流人数は項目 10-2、10-3 にまとめて記載している。) <table border="1"> <tr> <td>派遣先</td><td>日本</td><td>ベトナム</td><td></td><td>計</td></tr> <tr> <td>派遣元</td><td><人/人日></td><td><人/人日></td><td><人/人日></td><td><人/人日></td></tr> <tr> <td>日本</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td><人/人日></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>ベトナム</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td><人/人日></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>中国</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td><人/人日></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>合計</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td><人/人日></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>					派遣先	日本	ベトナム		計	派遣元	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	日本					<人/人日>					ベトナム					<人/人日>					中国					<人/人日>					合計					<人/人日>				
派遣先	日本	ベトナム		計																																																			
派遣元	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>																																																			
日本																																																							
<人/人日>																																																							
ベトナム																																																							
<人/人日>																																																							
中国																																																							
<人/人日>																																																							
合計																																																							
<人/人日>																																																							
	国内での交流 6 人 / 18 人日																																																						
21 年度の研究 交流活動計画及 び期待される成果	今年度は、昨年度取り組んだ「発達障害児の親支援のための調査」の先行研究を踏まえ、本調査を実施する。日本チームはアンケート調査に加え聞き取り調査など質的研究などでデータの妥当性を高めていく。また、次年度予定している国際比較研究に向けた分析について合意を形成する。先行研究の内容および本調査の中間報告を2回のセミナー(2009年6月および11月を予定)で行う。またセミナーの開催国の特徴を生かし、「親のニーズ」や「個別指導計画の作成」の実態について研究交流する。期待される成果は、各国で本調査を実施され聞き取り調査が行われる。セミナーおよびワークショップがハノイで開催され三カ国の研究交流がすすむ。																																																						
日本側参加者数																																																							
26 (荒木含む) 名		(13 - 1 日本側参加者リストを参照)																																																					
(ベトナム) 国 (地域) 側参加者数																																																							
16 名		(13 - 2 (ベトナム) 国側参加者リストを参照)																																																					
(中国) 国 (地域) 側参加者数																																																							
9 名		(13 - 3 (中国) 国側参加者リストを参照)																																																					

2 セミナー

実施するセミナーごとに作成してください。 -

整理番号	S - 1
セミナー名	(和文) 日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業 第 3 回「東アジア発達障害児の治療教育プログラム開発に関するセミナー」 (英文) The 3 rd seminar on the development of a treatment and educational program for children with developmental disorder in the East Asia on JSPS AA Science Platform Program
開催時期	平成 2 1 年 6 月 2 日 ~ 平成 2 1 年 6 月 4 日 (3 日間)
開催地 (国 (地域) 名、都市名、会場名)	(和文) ベトナム、ハノイ、ハノイ師範大学 (英文) Vietnam, Hanoi, Hanoi University of Education
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 荒木穂積・立命館大学産業社会学部・教授 (英文) Hozumi Araki, Professor, Department of Social Science , Ritsumeikan University
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (日本以外で開催の場合)	(ベトナム国) Nguyen Thi Hoang Yen・ハノイ師範大学障害児教育学科・学科長 (中国) 黄辛隠・蘇州大学教育学部・教授

参加者数

派遣先 派遣元	セミナー開催国 (ベトナム)	
日本 <人 / 人日>	A.	4 / 2 4
	B.	
	C.	3 / 1 8
中国 <人 / 人日>	A.	3 / 1 8
	B.	
	C.	
ベトナム <人 / 人日>	A.	
	B.	
	C.	1 3 / 7 8
合計 <人 / 人日>	A.	7 / 4 2
	B.	
	C.	1 6 / 9 6

A. セミナー経費から負担

B. 共同研究・研究者交流から負担

C. 本事業経費から負担しない (参加研究者リストに記載されていない研究者は集計しないでください。)

セミナー開催の目的		<p>セミナー開催のねらいは、これまで交流の少なかった東アジア地域（３ か国、ベトナム・中国・日本）の専門家、若手研究者が以下の３つの研究課題で研究交流を行うことである。すなわち 発達障害児の社会的・教育的状況、 発達障害児および親のニーズ調査、 治療教育プログラムおよび個別指導計画（IEP）開発・作成状況、での研究交流である。これらの研究者交流を通じて研究ネットワーク構築の基礎ができると期待できる。</p>	
期待される成果		<p>第３回セミナーの成果として期待できることは、</p> <p>第１は、国際共同研究「発達障害児の親支援のための調査」(３カ国の先行研究)の報告を行うとともに、次の本調査研究に向けての合意がえられること。</p> <p>第２は、ハノイ師範大学および関連施設の協力をえて「発達障害児の早期発見・早期対応プログラム開発」の実情の研究交流、「発達障害児の個別指導計画（IEP）の作成のための理論と実際」について研究交流をすすめ、ベトナムの社会的、教育的実情について理解がえられることである。</p> <p>第３は、共同の研究目的を確認し合うことによって国際共同研究の基盤づくりが促進することである。セミナーに参加する大学院生や若手研究者を中心にネットワークを形成がすすむことが期待できる。</p>	
セミナーの運営組織		<p>シンポジウム事務局は立命館大学を主体とし、開催地であるハノイ師範大内にも事務局を発足させる。現地での準備・運営にあたっては、日本側事務局と連携する。セミナー事務局は年度ごとに見直しを図り、体制を組み直すこととする。</p>	
開催経費 分担内容 と概算額	日本側	内容 外国旅費	金額 1,300,000 円
		その他	金額 375,000 円
		合計 1,675,000 円	
	(ベトナム国)側	内容 会場費	金額 30,000 円
		レセプション費他	金額 70,000 円
		合計 100,000 円	
	()国(地域)側	内容	金額

整理番号	S - 2
セミナー名	(和文) 日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業 第 4 回「東アジア発達障害児の治療教育プログラム開発に関するセミナー」 (英文) The 4 th seminar on the development of a treatment and educational program for children with developmental disorder in the East Asia on JSPS AA Science Platform Program
開催時期	平成 2 1 年 1 1 月 日 ~ 平成 2 1 年 1 1 月 日 (日間)
開催地 (国 (地域) 名、都市名、会場名)	(和文) ベトナム、ハノイ、ハノイ師範大学 (英文) Vietnam, Hanoi, Hanoi University of Education
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 荒木穂積・立命館大学産業社会学部・教授 (英文) Hozumi Araki, Professor, Department of Social Science , Ritsumeikan University
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (日本以外で開催の場合)	(ベトナム国) Nguyen Thi Hoang Yen・ハノイ師範大学障害児教育学科・学科長 (中国) 黄辛隠・蘇州大学教育学部・教授

参加者数

派遣先 派遣元	セミナー開催国 (ベトナム)	
日本 <人 / 人日>	A.	4 / 2 4
	B.	
	C.	3 / 1 8
中国 <人 / 人日>	A.	3 / 1 8
	B.	
	C.	
ベトナム <人 / 人日>	A.	
	B.	
	C.	1 2 / 7 2
合計 <人 / 人日>	A.	7 / 4 2
	B.	
	C.	1 5 / 9 0

A. セミナー経費から負担

B. 共同研究・研究者交流から負担

C. 本事業経費から負担しない (参加研究者リストに記載されていない研究者は集計しないでください。)

セミナー開催の目的		<p>第４回セミナーの目的は、第３回セミナーの実績を踏まえて、先行研究から本研究へと進むための合意形成と具体化をはかることである。すなわち 各国固有の独自の調査項目と３ヵ国共通の調査項目を区別すること、 個別ケースについてインタビュー調査による質的研究をすすめ、国際比較研究のすすめ方や方法論についての合意を形成することである。併せて、プログラム開発に向けて発達障害や治療教育の概念の各国間の共通理解をすすめる、国際動向の共有化を図っていくことである。</p>	
期待される成果		<p>第４回セミナーでの期待される成果は、以下の点である。 国際共同研究「発達障害児の親支援のための調査」本調査の交流および国際比較研究の方法の検討で合意をえること。「発達障害児の早期発見・早期対応プログラム開発」の実情の研究交流、「発達障害児の個別指導計画（IEP）の作成のための理論と実際」についてベトナムの現状を中心に交流する。</p> <p>「親のニーズ」について検討を深める。これらの取り組みを通して、国際共同研究の基盤形成が促進されることが期待できる。</p>	
セミナーの運営組織		<p>基本的に第３回セミナーと同じ体制で運営にあたる。なお、第４回セミナーの運営にあたっては第３回セミナーの改善点を踏まえて運営を工夫する。</p>	
開催経費 分担内容 と概算額	日本側	内容 外国旅費	金額 1,405,000 円
		その他	金額 342,000 円
			合計 1,747,000 円
	ベトナム（地域）側	内容 会場費	金額 30,000 円
		レセプション費他	金額 70,000 円
			合計 100,000 円
	（ ）国（地域）側	内容	金額

3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

相手国との交流

派遣先 派遣元	日本 <人 / 人日>	ベトナム <人 / 人日>	中国 <人 / 人日>	計 <人 / 人日>
日本 <人 / 人日>		5 / 3 0	5 / 3 0	1 0 / 6 0
ベトナム <人 / 人日>	6 / 3 6		6 / 3 6	1 2 / 7 2
中国 <人 / 人日>	4 / 2 4	4 / 2 4		8 / 4 8
合計 <人 / 人日>	1 0 / 6 0	9 / 5 4	1 1 / 6 6	3 0 / 1 8 0
国内での交流	0 人 / 人日			

セミナー（S-1、2）開催中に研究者交流も予定しているため、交流人数はセミナーにおける派遣人数と重複する可能性がある。